

年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	成人看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	201・202教室
担 当 教 員	岡田 香代子	実務経験とその関連資格	病院の消化器外科病棟・外来と有床診療所の看護師として勤務。			
《授業科目における学習内容》						
成人の成長発達の特徴について役割や健康問題を踏まえて理解し、身体機能の特徴と生活行動(生活習慣と健康障害)と関連させて捉える。生活者としての大人の成人を理解し、成人は活動性や価値観も多様であり、それに伴い健康観も様々である。そのような対象の特徴を踏まえ、大人の学習者の学習を援助する成人教育学を捉え、健康教育・患者教育を行う基盤を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験80％ レポート課題10％ 小テスト10％、出席状況、授業への参加状況で評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 国民衛生の動向 厚生労働統計協会						
《授業外における学習方法》						
授業終了後、教科書を読んで、用語の定義と意味の理解を復習しておきましょう。。国民衛生の動向を活用しますので、統計の図表、解説も読んで授業に臨んでください。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書の用語や事例を自分自身の身近な大人、成人を思い浮かべながら、学習していくと内容の理解が促進します。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の定義、成人について理解し、成長発達と生活の視点から説明できる。		教科書、AV機器、A4用紙	教科書を事前に読んで、グループワークで意見が言えるように準備しておく。
		各コマにおける授業予定	成人期にある人の理解 ・成人の定義 ・成人の成長発達			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	成人各期(青年期・壮年期、中年期、向老期)の特徴を、話合うことができる。		教科書、A4用紙、マジック	グループワークの資料を発表までにまとめ、1部提出、1部各自、資料をコピーしておく。
		各コマにおける授業予定	ライフサイクルと成人各期の特徴。グループワーク			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人各期(青年期・壮年期、中年期、向老期)の特徴を、資料にまとめたことを説明できる。		教科書、書画カメラ、グループ毎の資料(コピー)	成人期の特徴を復習しておく。次回小テスト実施する。
		各コマにおける授業予定	ライフサイクルと成人各期の特徴。グループ発表			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の生活と健康の特徴について説明できる。		教科書、国民衛生の動向	環境が健康にどんな影響を及ぼすか課題レポート
		各コマにおける授業予定	成人の生活と健康の理解 ・成人を取り巻く環境 ・健康の状況(生と死の動向、受療状況、自殺) ・小テスト			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の生活習慣と健康問題の関連を理解し、生活習慣予防・更年期障害の対策が説明できる。		教科書、国民衛生の動向	用語の定義と内容の理解を復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	成人の特徴的な健康問題の理解 ・生活習慣病 ・感染症 ・更年期障害 ・小テスト			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	職業病性疾患とその業務上疾病を理解し、職業性疾患の予防と対応が言える。	教科書、資料	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人に関連する健康問題の理解 ・職業性疾患とその予防 ・ストレス関連疾患 ・小テスト		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の学習者の特徴について理解し、学習理論に基づいて行動変容を促進し、健康行動を促す援助が言える。	教科書、資料	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の看護アプローチの基本 ・成人教育の特徴 ・アンドラゴジー ・行動変容ステージモデル		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人のセルフマネジメント理論を理解し、コンプライアンスを高めるアプローチと、自己効力を高めるアプローチの方法が説明できる。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	セルフマネジメントを推進する技術 ・コンプライアンス・自己効力を高める看護技術		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活ストレスと健康問題を理解し、ストレス関連疾患の予防と対応が説明できる。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の健康レベルに応じた看護 ・健康をおびやかす要因と看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヘルスプロモーションを促進する看護について説明できる。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の健康レベルに応じた看護 ・ヘルスプロモーションと看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	危機理論を理解し、危機状況と体験している患者、家族の心身の苦痛とその看護について説明できる。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の健康レベルに応じた看護(急性期)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性疾患者の概念「病みの軌跡」やモデルを理解し、慢性患者のセルフマネジメント能力を高めるアプローチが言える。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の健康レベルに応じた看護(慢性期)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の定義、障害の認識過程が説明できる。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の健康レベルに応じた看護 ・回復期とリハビリテーション		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害をもちながら生活する人を支援する看護の各期の特徴が説明できる。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の健康レベルに応じた看護 ・急性期 ・維持期のリハビリテーション		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	人生最後のときにある人の全人的苦痛を理解し、その人を支える看護について説明できる。	教科書、他	授業で学んだ内容を復習し、予定の範囲の教科書を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	成人の健康レベルに応じた看護 ・人生の最後のときを支える看護		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	苦痛の緩和・安楽確保と呼吸・循環を整える技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担 当 教 員	中尾 靖 他	実務経験と その関連資格	看護師として病院に勤務			
《授業科目における学習内容》						
主要症状に対して、人間の解剖生理学的メカニズムを理解し、対象の症状を改善するために必要な援助の方法を習得する。また、医療機器使用時の援助方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(80%)、講義・演習への出席状況、課題提出状況(20%)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 看護がみえる③ フィジカルアセスメント メディックメディア						
《授業外における学習方法》						
1. 各授業において、予習・復習は 45 分以上の授業外学習を行ってください。 2. 既習の科目の解剖学、生理学、病態治療論で学習した知識・技術を活用し、学習した内容をふまえ予習を行い、事前学習をしてから演習に臨んでください。演習後は、内容について振り返りを復習をしてください。						
《履修に当たっての留意点》						
事前の課題学習は、授業内容を理解する上で必要となります。提示された事前の課題学習は、期限を守り提出してください。演習では、個人で学習準備をした上で、教科書や授業ノート・参考資料等を持参し、積極的に演習に参加してください。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害のある患者のアセスメントの視点が説明できる。		教科書 看護がみえる②	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	呼吸障害のある患者の看護、アセスメント、DVD視聴			
第 2 回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害のある患者への援助の方法とその根拠が説明できる。		教科書 看護がみえる②	指定した教科書を事前に読み(吸入・吸引)わからない言葉を調べておく事。
		各コマにおける授業予定	呼吸障害のある患者の看護、DVD(体位ドレナージ、スクイーピング、吸入、吸引)			
第 3 回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害のある患者への援助が説明できる。		教科書 看護がみえる②	酸素療法をうける患者の看護をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	呼吸障害のある患者への援助			
第 4 回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害を持つ患者の看護、循環の生理的メカニズムを理解し、アセスメントの視点が説明できる。		教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	循環障害を持つ患者の看護、循環の生理的メカニズム、アセスメント			
第 5 回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害を持つ患者への援助の方法とその根拠が説明できる。		教科書	指定した教科書を事前に読んでおくこと。心電図の看護技術ノートを作成する。
		各コマにおける授業予定	循環障害を楽にする方法の選択			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環障害を持つ患者の看護が説明できる。	教科書	指定した教科書を事前に読んでおくこと。心電図の看護技術ノートを作成する。
		各コマにおける授業予定	循環障害を持つ患者の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養・代謝障害の症状とメカニズムを理解し、ニーズ充足に向けた看護援助が説明できる。	教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養や代謝に関連する症状を示す、メカニズム、アセスメント		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄機能障害の症状を示す患者の看護とその症状のメカニズムが説明できる。	教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害の症状を示す対象者への看護、排泄機能障害に関連する症状のメカニズム		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化・排泄障害のある患者の看護が説明できる。	教科書	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識障害のある患者の看護が説明できる。	教科書 フィジカルアセスメントがみえる	授業内容に関する教科書を事前に読んでわからない言葉を調べておくこと。
		各コマにおける授業予定	意識障害のある患者の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護を説明できる。	教科書 フィジカルアセスメントがみえる	意識レベル、認知機能のスクリーニングツールを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みのある患者への安楽に向けた援助が説明できる。	教科書 フィジカルアセスメントがみえる	痛みのアセスメントを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	安楽に関連する症状を示す対象者への看護(痛みと嘔吐)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ME機器の使用にあたっての基本原則が説明できる。	教科書 看護がみえる②	吸入・吸引のワークシートの作成をする。
		各コマにおける授業予定	医療機器使用時の看護、演習準備事前学習「吸引」		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	吸引、酸素吸入、心電図を患者に実施できる。	吸引器、心電図計、酸素ボンベ、酸素流量計などの医療機器	予習;解剖学、生理学、で学習した内容を復習し、内容に該当する部分のノートやプリントをよく読んで、演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	吸引、酸素吸入、心電図		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	吸引、酸素吸入、心電図を患者に実施できる。	吸引器、心電図計、酸素ボンベ、酸素流量計などの医療機器	予習;解剖学、生理学、で学習した内容を復習し、内容に該当する部分のノートやプリントをよく読んで、演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	吸引、酸素吸入、心電図、まとめ		